

RELAY TALK

「今日この頃」 柳内三千代

「春は名のみ」と思いきや自然の動きは、日一日と仲春への歩みを速めていきます。

雪の朝 むっくり土を持ち上げている福寿草の芽を見つけ、思わず雪を振り払ったのは2ヶ月前のことでした。その後、黄蓮、貝母、イワヤツデ、ミスミ草、一人及二人静、春蘭、イカリ草、次々と早春を教えてくれる野草たちが 愛らしい花を精一杯咲かせてくれます。一年中で 一番胸ときめくうれしい季節です。

園芸花のような派手さはありませんが、時節を切実に訴える大きな力を持っているのが小さな小さな野草達だと思います。



自然から離して自己満足のために、わたしの庭に植えられた野草達に対して、懺悔の気持ちも含めて、よりいとおしく思うのであります。

中東の地域で繰り広げられている痛ましい戦争を思う時、小さな小さな野草でさえ 人間の勝手やわがままで絶やすことは決して許されないのに、いわんや人命を奪う戦争はどんな理由であれ、絶対に許されないと強く思う今日この頃です。

図書館まつり企画会議

6月6日(金)PM 1:30 - 図書館会議室

次回例会

7月12日(土) AM9:30-12:00

図書館会議室

8月以降も原則として 第2土曜日に図書館で例会を開きます。

会員募集

「岡崎図書館を考える会」では、会員を募集しています。

定例会、会報、図書館見学などを通じて、よりよい図書館を目指すため、あなたの参加をお待ちしています。

年会費 一口1000円(何口でも)

郵便振り込み先:岡崎図書館を考える会 口座記号

12100 口座番号 65327361

問合せ先 加藤(25-1595) 山田(57-8067)



岡崎図書館を 考える会

5 No.6



より良い図書館を目指して
より身近な図書館を目指して

発行:事務局
(0564-25-1595) 加藤

<http://home1.catvms.ne.jp/~pp-kato/>

第2回 図書館を考える会講演会 3月16日(日)

「図書館の誕生に立ち会う」

田原町図書館館長 森下芳則氏

岡崎市立図書館会議室 参加者35名



森下氏は 人口3万6800人、82 k m²の田原町に20億円をかけて建てられた図書館に1999年10月に呼ばれて館長になりました。

「公共の図書館は住民から求められる資料や要求を実現するものだと思う。安定は停滞につながる。変わらないことを恐れる。他の人の目をいれる。田原町の図書館を作るにあたって、そのことを大事にしたい。」と前置きをされ、その後図書館の建設されるまでの過程を説明していただきました。

指名型プロポーザル方式で和設計事務所を選定し、住民にヒアリングを100 - 102回行った。設計事務所からは意匠に関してはプロだから口を出さないで欲しいと言われた。しかし、運営は図書館員に任して欲しいと主張。また町長に伊万里の図書館などを見学してもらった。

平成11年12月に基本設計ができ、2月に「第1回情報広場」で公開された。このときには120名の住民が参加した。

情報広場は住民と設計者と建設準備室(行政)、図書館館長が一体となって開いた。第2

回は菅原峻氏の講演会、第3回にはフリースペースについて考えた(神奈川県民サポートセンターの石田静子さんを講師として)。その後 山口源次郎氏の講演会や図書館見学会、現場見学会などを行って開館する。館内はゆっくり滞在できるように椅子にお金をかけ、また中庭を造り居心地を良くした。

また運営面で 誰が責任を取るのか。その意味で「館長は司書資格を持つもの、あるいは見識のあるもの」の項目を図書館の条例に入れた。マンガはその他の本などと同じく表現の一つなので在庫している。

「講演を聞いて」 鶴田英子

森下館長は「図書館の誕生に立ち会う」ではなく、まさに「誕生させた」お一人なのです。お話から誠実で穏やかなお人柄と同時にライブラリアンとして誰にも負けない熱意を感じました。

- ・ サービスの安定は停滞でもある。変わることを恐れてはいけません。
- ・ 館長には司書を。席をあたため、無事に過ごすだけの人には館長になって欲しくない。

私は内心でそのとおり！と叫びました。そして岡崎新図書館を考える市民会議で愛知学泉短大の鋤柄先生がおっしゃった「図書館は人がつくる」という言葉を思い出していました。

他にも印象に残ったことを箇条書きにします。

- ・ 準備段階から何年にも渡って 行政と業者と住民の対話があったこと。
(どの立場にも相当なエネルギーを要したことでしょう)
- ・ 行政のトップに先進的なところを視察してもらう。

田原町の場合も視察の行きと帰りでは反応が違った。(「地域の長の考え方が図書館には大きく影響する」と鋤柄先生もおっしゃいました)

- ・ 市民の図書館とは資料を提供すると共に求める質を高める手助けをする。
- ・ 公共図書館と学校図書館の連携が重要。探求心を育てる。子供が変われば先生が変わる。
- ・ アメリカのある大学の図書館では、土、日でも学生で一杯。学生は金曜の夜は遊んでも土、日は勉強する。
- ・ 準備から住民が参加すれば、できた物を大事に使ってくれる。
- ・ 100年持つ設計を。

等々興味深いお話はたくさんあって書き切れませんが、「図書館は人が作る」とは利用する住民も、また、図書館を育て、活気を与える「人」なのだ、私の心に大きくひびきました。

参加者のアンケートから

*ライブラリアンとしての誇りのすばらしさを感じました。これからの学校教育は 公共の図書館の支援が必要だと考えている。生徒たちが学校図書館を利用し、かつ公共図書館を利用する事で、目標が達成されると思います。まだ発展途上、何か新しい展望は見えないかと参加しました。

*図書館は、人が人に対するサービスをする...当たり前の事なのに、最認識させられました。市にする事に、要望を出したり、関心を持つことの大切さを知りました。

*すばらしいものを新しく作っていく事は本当に大変であり、多くの努力が必要だと言う事が身にしみて感じました。

*今までどうして図書館を利用しなかったかを考える良い機会になりました。岡崎市民としてこれから新しくできる図書館に対して、とても興味が出てきました。「バリアフリー」を目指して欲しいと思います。

*粘り強い交渉の大切さを再認識した
新図書館と岡崎公園を結ぶ地下道と市電の設置が必要。郷土研究室、地球環境研究室、医師と総合的な図書館の設置が必要。宗教に問うる図書の充実、子どもの参加機関の設置。町内に一人、図書に関する委員を町内会長は任命する。学生からの意見を聞く。

豊橋市立豊城中学校の図書館見学記

普通の中学と同じように書庫のような図書館が すっかり変わった豊城中学の図書館を見学に行ってきた。

3月に今までの本を全部だし、書庫入りの本、図書館の本、廃棄待ちの本に分け、赤木かん子さんの指導のもとに 並べなおした図書館。倉庫からショップへ、明るい現代っ子のセンスをプラスした空間に改装。本の埃を払ったり、天井、証明、窓、床、本棚の埃と垢を PTA やボランティアの人たちの力できれいにし、部屋を明るくしたそうです。

「この図書館の目標は、書庫を作って、図書館に本を全部出さない、書庫の出入りは自由。重たい雰囲気を作らないように。そして、本の分類配架」だそうですが、まったくそのとおり 本だなの中は空間があり、本の正面が見せてあり、生徒たちが見てすぐに手に取りたいようになっています。

また 分類ごとに本が配置され、例えば調べ学習用の部屋の数学の項目には「とつてもすてきなかけざんの本」という仕掛け絵本から、本格的な学習の本まで一緒の棚にあり、どのレベルの生徒も、楽しみながら読んだ

り、調べたりできるようになっていました。

書架は低く、窓は明るく、机にはボランティアの人の手作りの布がかけられていて、私たちはすっかりリラックスして、なかなか失礼することができませんでした。マンガから、今読まれている本まで揃えてあり、この生徒はどんなにうれしいことでしょう。週に二回ボランティアの方が本の修理などをしたり、どんな本を追加していくか先生と考えていたり、今後も地味な活動が続けていくことが大事と教えて下さいました。

岡崎の小、中学校もこんな図書館が欲しいと いっしょに行った仲間と興奮しながら話しています。
(山田美代子記)



「考える会の勉強会」

学校図書館を考える 「学校図書館をいきいきと」

6月14日(土) AM 10:00 - 12:00

図書館3階会議室アドバイザー 豊橋学校図書館を考える会 竹本ゆりえさん
豊橋学校図書館司書 福島陽子さん

勉強会の後 お二人と一緒に食事をしながら話しをしたいと思います。カフェ
jouer (ジュエ) 竜美ヶ丘会館横サークルK隣 65-3434
食事を希望される方は事前に連絡をください。